

# 道徳の時間の学習指導案の内容と作成（小学校）

## 解説書 第5章 道徳の時間の指導 第2節 学習指導案の内容とその作成

※（「小学校学習指導要領解説・道徳編」P.81～83）

### 1 学習指導案の内容

道徳の時間における学習指導案とは、授業をしようとする教師が、年間指導計画に位置付けられたそれぞれの主題を指導するに当たって、児童や学級の実態に即して、教師自身の個性を生かして作成する指導計画である。具体的には、主題のねらいを達成するために、児童がどのように学んでいくのかを十分に考慮し、何を、どのような順序、方法で指導し、評価し、更に指導に生かすのかなど、学習指導の構想を一定の形式に表現したものである。

学習指導案は、教師の指導の意図や構想が最も適切に表現されることが好ましく、各教師の創意工夫が期待される。したがって、その形式に特に決まった基準はないが、一般的には次のような事項が取り上げられている。

- (1) **主題名** 原則として年間指導計画における主題名を記述する。
- (2) **ねらいと資料** 年間指導計画を踏まえてねらいを記述するとともに資料名を記述する。
- (3) **主題設定の理由**

年間指導計画における主題構成の背景などを再確認するとともに、(ア)ねらいや指導内容についての教師の考え方、(イ)それと関連する児童の実態と教師の願い、(ウ)使用する資料の特質や取り上げた意図及び児童の実態とかかわらせた指導の方策などを記述する。(略)

- (4) **学習指導過程**

ねらいに含まれる道徳的価値について、児童が自覚を深めていくための教師の指導と児童の学習の予想される手順を示すものである。一般的には、学習指導過程を導入、展開、終末の各段階に区分し、児童の学習活動、主な発問と予想される児童の発言や心の動き、指導上の留意点や支援の観点、指導の方法、評価の観点などを指導の流れに即して記述することが多い。

- (5) **他の教育活動などとの関連**

特に関連のある教育活動や体験活動、日常生活との関連、事前の指導や事後の指導の工夫などについて記述する。

- (6) **その他**

例えば、評価の観点、資料分析、板書、場の設営、個別指導との関連、家庭や地域社会との連携、校長や教頭などの参加、他の教師との協力的な指導、保護者や地域の人々の参加や協力など、学習の特質に応じて授業が円滑に進められるよう必要な事柄を記述する。(略)

### 2 学習指導案作成の主な手順

学習指導案の作成の手順は、(略)おおむね次のようなことが考えられる。

- (1) **ねらいを検討する**

指導の内容や教師の指導の意図を明らかにする。

- (2) **指導の要点を明確にする**

ねらいに関する児童の実態と、それを踏まえた教師の願いを明らかにし、各教科等での指導との関連を検討して、指導の要点を明確にする。

- (3) **資料を吟味する**

資料について、ねらいとのかかわりで道徳的価値がどのように含まれているかについて検討する。例えば、人物が登場する読み物資料の場合、資料中の登場人物の行為や心の動き、資料に対する児童の感じ方や考え方を分析し、どのようにすれば児童の学習意欲を高め、道徳的価値の自覚を深めることができるかなどについて多面的に検討する。

- (4) **学習指導過程を構想する**

ねらい、児童の実態、資料の内容などをもとに、授業の展開について考える。その際、児童がどのような問題意識をもって学習に臨み、ねらいとする道徳的価値を追求し、多様な感じ方や考え方によって学び合うことができるかを具体的に予想しながら、それが効果的になされるための発問や授業の全体の展開を構想する。

- (5) **一人一人を生かす方法を考える**

様々な表現活動、書く活動、グループでの話し合い、意図的指名など、一人一人の感じ方や考え方が生かされ、学び合うことのできる方法を工夫する。

- (6) **板書を生かす計画を立てる**

(略)板書を生かす授業にあっては、ねらいにかかわって、指導の意図や資料の内容、児童の感じ方や考え方の違いなどを視覚的に整理して生かすための工夫を検討する。

- (7) **事前、事後の押さえや指導について考える**

豊かな体験活動や日常的な指導、各教科等での指導との関連をはじめ事前の実態把握や事後の個別的な指導、家庭や地域社会との連携をも含めて検討する。

### 3 学習指導案作成上の創意工夫

学習指導案の作成に当たっては、これらの手順を基本としながらも、更に児童の実態、指導の内容や意図等に応じて工夫していくことが求められる。特に、重点的な指導や体験活動を生かす指導、複数時間にわたる指導、多様な資料の活用、校長や教頭などの参加、他の教師との協力的な指導、保護者や地域の人々の参加や協力などの工夫が求められることから、多様な学習指導案を創意工夫していくことが求められる。

また、特に重点的な指導内容については、ねらいそのものを道徳の時間の複数の時間にわたって位置付け、それぞれの関連を密にもたせた学習指導案や、他の教育活動との関連を位置付けながら一連の学習過程をまとめるような学習指導案を工夫することも考えられる。

更に、学習指導案は、学校の教師の共通財産ともいえるべきものであり、だれが見てもよく分かるように形式や記述を工夫するとともに、研修等を通じてよりよいものへと改善し、次の指導に生かせるよう学校として蓄積していくことも大切である。

# 道徳の時間の学習指導案の内容と作成（中学校）

## 解説書 第5章 道徳の時間の指導 第2節 学習指導案の内容とその作成

※（「中学校学習指導要領解説・道徳編」P.85～87 一部ダイジェストしている）

### 1 学習指導案の内容

道徳の時間の学習指導案とは、指導に当たる教師が道徳の時間に、学級の生徒を指導するために作成した具体的な指導計画案のことである。つまり、主題のねらいを達成するために、生徒がどのように学んでいくのかを十分に考慮して、何を、どのような順序で、どのような方法で指導し、評価し、更に指導に生かすのかなど、学習指導の構想を一定の形式にまとめたものである。学習指導案には定まった形式や基準はなく、各教師の創意工夫が期待されるが、内容としては次のようなものが考えられる。

- (1) **主題名** 原則として年間指導計画における主題名を記述する。
- (2) **ねらいと資料** 年間指導計画を踏まえてねらいを記述するとともに資料名を記述する。
- (3) **主題設定の理由** 年間指導計画における主題構成の背景などを確認するとともに、①ねらいや指導内容についての指導者の基本的な考え方、それと関連する②生徒の実態と教師の願い、使用する③資料の特質や取り上げた意図及び生徒の実態とかかわらせた指導の方策などを記述する。（…番号は後付け）
- (4) **指導区分** 指導区分とは、1主題に2単位時間以上を充てて指導しようとする場合、それぞれの単位時間の指導が、全体としての主題の指導においてどのような位置にあるかを明らかにし、各単位時間の指導のねらいを示すものである。
- (5) **学習指導過程** ねらいに含まれる道徳的価値について、生徒が内面的な自覚を深めることを目指し、資料や生徒の実態などに応じて、教師がどのような指導を展開していくか、その手順を示すものである。一般的には学習指導過程を、導入、展開、終末の各段階に区分し、生徒の学習活動、主な発問と生徒の予想される反応、指導上の留意点などで構成されることが多い。生徒の実態や資料の特質、教師の指導の目的などに応じて多様な展開を工夫する必要がある。
- (6) **その他** 道徳の時間の指導の効果を高めるために、事前指導と事後指導、各教科等における道徳教育との関連、体験活動や日常の個別指導との関連、校長や教頭などの参加、他の教師との協力的な指導、家庭や地域社会との連携、評価の観点などについて示すことも大切である。（略）

### 2 学習指導案作成の主な手順

（略）学習指導案作成の手順や留意点としては、次のようなことが考えられる。

- (1) **ねらいを検討する** 年間指導計画に示されている主題名とねらいを確認し、指導の内容や教師の指導の意図を明らかにする。
- (2) **指導の要点を明確にする** ねらいに関する生徒の実態、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における指導との関連も考慮し、指導の要点を明確にする。
- (3) **資料を吟味する** ねらいとのかかわりで道徳的価値がどのように含まれているか、生徒の実態に適合しているか、更に資料をどのように活用すれば、生徒の学習意欲を高め、授業に深まりと広がりをもたせることができ、道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深めさせることが可能かどうかなどの観点から検討を加える。（略）
- (4) **生徒の感じ方、考え方を予測し、主な発問を考える** ねらいや指導内容及び資料について、生徒がどのように感じたり考えたりするのかを具体的に予測し、ねらいに的確に迫るための発問を考える。その際、生徒が価値とのかかわりのなかで人間の真実やよりよく生きる意味について考えを深めることができるよう、資料の特質や生徒の実態を考慮し発問を吟味することが大切である。
- (5) **学習指導過程を考える** ねらい、生徒の実態、資料の内容などから、授業の流れの中心となる展開の段階について考え、生徒の感じ方、考え方を一層深めるためにはどのような順序で発問すれば効果的かを検討する。（略）
- (6) **板書計画を立てる** ねらいにかかわって、指導の意図や資料の内容の整理、生徒の感じ方や考え方の整理をするために、板書を有効に活用することを検討する。学習指導過程との関連をもたせて計画を立てる。
- (7) **事前指導、事後指導について考える** 豊かな体験活動や日常的な指導、各教科等での指導との関連をはじめ事前の実態把握や事後の個別的な指導、家庭や地域社会との連携をも含めて検討する。

### 3 学習指導案作成上の創意工夫

学習指導案作成に当たっては、これまでに述べた手順を基本としつつ、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動などとの関連、生徒の実態や指導内容、さらに指導する教師の構想や意図により、様々に創意工夫していくことが求められる。

特に重点的に取り上げる内容については、ねらいそのものを道徳の時間を複数時間使って、それぞれの関連を密にもたせた学習指導案や、豊かな体験活動や各教科、総合的な学習の時間及び特別活動などにおける道徳教育との関連を明確に位置付けながら一連の学習指導過程をまとめた学習指導案など、様々に工夫する必要がある。

更に、学習指導案は、学校の教師の共通財産ともいべきものであり、だれが見てもよく分かるように形式や記述を工夫するとともに、研修等を通じてよりよいものへと改善し、次の指導に生かせるよう学校として蓄積していくことも大切である。